



平成22年 The湾岸フォトコン「一矢入魂」

高山 四十九所神社の流鏑馬

肝付町高山



10月第3日曜日

流鏑馬は鎌倉時代に始まり、国家安泰、五穀豊饒、悪疫退散を祈願する年占いで、今もこの願はこめられています。

全国的に成人の射手が多い流鏑馬ですが、肝付町で行われる流鏑馬の射手は中学生が務め、毎年変わります。

引手のかけ声と共に駆け出し、矢が的に命中した音と馬の疾走する足音が共鳴した瞬間、神社の杜に大きな歓声が響きます。

約330メートルの馬場を3回駆け抜けながら、合計9本の矢を放ちます。

狩衣装束にあやい笠を身にまとい、弓受けの儀により神の使いとなった射手は神馬とともに馬場を疾走します。

流鏑馬の期日は、昔は10月19日の四十九所神社大祭日でしたが、現在は10月第3日曜日に行われています。

流鏑馬の起源は、白河天皇の御代、永長元年（1096年）に始まったと記録にあり、鎌倉初期の保元平治物語の中にも流鏑馬のことが出ています。

四十九所神社を創建した伴兼行の孫、伴兼貞が長元9年（1036年）に肝付郡の弁済使になつていますが、高山で流鏑馬が始まったのはそれから100年後になるよう、900年近い歴史があるとされています。

日本における流鏑馬の起源は、白河天皇の御代、永長元年（1096年）に始まったと記録にあり、鎌倉初期の保元平治物語の中にも流鏑馬のことが出ています。

大隅半島（おすみはんとう）の代表的な伝統を守護するお祭りのひとつに流鏑馬（やぶさめ）がある。疾走する馬上からの矢（かぶらや）を射る、日本の伝統的な騎射の技術・稽古・儀式のことを言い、現在では、肝付町の高山四十九所神社の流鏑馬（肝付郡肝付町新富四十九所神社）と末吉町住吉神社の流鏑馬（曾於市末吉町二之方住吉）で行われている。

無形民俗文化財



平成22年 The湾岸フォトコン「高山の流鏑馬」

志布志湾岸お祭り大百科

伝統 まつり 大隅

大隅半島に行こう！

住吉神社の流鏑馬末吉

曾於市末吉町

11月23日 勤労感謝の日



無形民俗文化財

住吉神社の流鏑馬は、県下三ヶ所(他に肝付町高山の四十九所神社・日置市吹上町の大汝牟遅神社)で行われる流鏑馬の一つで、江戸時代末には既に行われていたことが、三国名勝図会に記載されています。いつ頃から行われたかは不明です。時期は秋の豊祭で、かつては11月19日でしたが、今は11月23日の勤労感謝の日に行われています。

昭和56年に県指定無形民俗文化財となっています。

当日は午後1時頃から神事があり、本儀は2時頃から始まります。二百数十メートルの参道に3つの的が設置されており、馬を鳥居から神社方向へ走らせて、馬上から弓で矢を放ち、的を射る勇壮な行事です。射手の装束は、鎌倉時代の巻狩の姿と言われます。

境内では奉納武道大会もあり、豊祭料理のコンニャクや甘酒が振る舞われます。



岩川八幡神社の 弥五郎どん祭り

曾於市岩川町

11月3日



無形民俗文化財

毎年(新暦)、11月3日午前2時に、弥五郎どん起こしの行事が始まります。起こし太鼓を打ちながら神社周辺を廻って神事が行われ、午前3時頃、弥五郎どんの組み立てを始めます。本体には竹籠で25反もある梅染めの木綿の単衣を着せて、午前5時頃、弥五郎どん起こしの太鼓が鳴り響く中で、弥五郎どんを四輪の台車に立てます。高さは4.85メートルです。午後1時浜下りとなり、子供たちに引かれた弥五郎どんが、市街地を練り歩きます。

道・相撲などの武道大会が奉納されます。馬場の通りは出店が軒を連ね、神社の境内では甘酒やこんにゃくが振る舞われます。

伝説によると、弥五郎どんは武内宿弥の化身あるいは隼人族の首領とも言われ、昭和63年県指定無形民俗文化財となっています。弥五郎どん祭りは九州南部の3カ所で行われていますが、宮崎県北諸郡山崎町が長男、鹿児島県曾於市が次男、宮崎県日南市飫肥が三男と言われており、「三国名勝図会」に記載があるとされる。



お釈迦祭り

志布志市志布志町

4月29日
みどりの日



平成23年「The湾岸フォトコン」
「馬上の花嫁たち」

お釈迦様の誕生日とされる4月8日を祝う行事で、奈良時代に建立と伝えられ、観音様を祀る宝満寺を中心にお祭りが開催されます。「4月8日(しがつようか)」がなまり「しがつじよか」と呼ばれ親しまれており、鹿児島県三大祭りに数えられる。古くは江戸時代から盛大に祝われていたようで、現在は4月29日のみどりの日に行われています。

宝満寺は安産に御利益があることから、花嫁を馬の背に乗せ花婿が手綱をひくシャンシャン馬行列や籠に担がれた稚児行列(籠に乗せられた幼児)、武者行列などが町中をパレードし、盛大に行われます。宝満寺は「律宗秘山密教院宝満寺」と称し、奈良時代の神亀年間に聖武天皇が皇国鎮護のために創建されたと伝えられており、正和5年(1316年)信仙上人が再建し、本山の奈良西大寺から運慶作の如意輪観音像を移し本尊としたといわれています。廃仏毀釈で壊された後お寺は途絶えていましたが、昭和10年に旧宝満寺境内に現在の観音堂が建てられました。



都井岬の火祭り

串間市都井岬



写真提供:串間市観光協会

8月第4金曜・土曜日



毎年、8月第4金・土曜日にかけて都井岬で行われる火祭りは、串間市最大のお祭り、ダイナミックな炎の乱舞が夜空を焦がすクライマックスは、息を飲む迫力です。

古くから「十五夜柱祭り」として親しまれてきたこの祭りは、昔、人々を苦しめてきた大蛇を衛徳坊（えいとくぼう）というお坊さんが火攻めで退治したという伝説を再現したもの。高さ30メートルの柱松を大蛇に見立て、てっぺんには大蛇の口を囊で表現し、それにめがけて

「とんとことつてゝえいとくぼう」（とんとつとつち取った衛徳坊）の掛け声で松明を投げ入れます。

暗闇の中で放物線を描き、投げ上げられた松明が見事柱松に命中すると、激しく炎が上がり、祭りは最高潮となる。火花が吹き出す様子は、大蛇が退治された時に「火炎のような血潮を吹き出した」という伝説にちなんだもの。2日間にわたり多くの見物客が、豪快な火祭りに酔う。

曾於市末吉町深川



写真提供:曾於市

1月7日

末吉町熊野神社の鬼追い

無形民俗文化財



毎年1月7日、曾於市末吉町の熊野神社で「鬼追い」が行われます。

この鬼は、招福除災（しょうふくじょさい）の善鬼とされ、25歳の厄男が鬼となつて、無数の御幣を身に纏った鬼と（付添い役）が縦横無尽に駆け巡ります。鬼が暴れば暴れるほどその年は五穀豊穡、無病息災になると言い伝えられている伝統行事。鬼の御幣をちぎり取れば1年健康であるといわれています。

「鬼追い」は、年頭に五穀豊穡と天下泰平を祈願する伝統行事の修正会（しゅしょうえ）を起源とする祭りで、1250年来の伝統を持つといわれています。

これは元々、熊野神社の近所にあつた光明寺という寺院で行われていたものが、明治維新後の廃仏毀

釈（はいぶつきしゃく）で寺院が廃止されたため、熊野神社に引き継がれたことによります。

・修正会（しゅしょうえ）とは、仏教寺院で毎年1月に行われる法会。前年を反省して悪を正し、新年の国家安泰、五穀豊穡などを祈願するものである。期間は基本的に7日間であるが、寺院などによって期間が異なる。追儺式として鬼追式などが行われる。

ドヤドヤサー 鬼火たき

肝属郡肝付町内之浦

写真提供:肝付町



内之浦地区市街地の下浜で、毎年1月7日に行われる鬼火焚きの祭です。

ドヤドヤの語源は不明ですが、俳句新年の季題に「どんど焼き」「どんど正月」などがあり新年の飾り類を焚いて、そのほてりで新しい年の悪事災難を払うといわれています。

ドヤドヤサーは、孟宗竹を束ねて立てた先端に、日の丸の扇子や、5色の布、折り紙などを飾り、干支になぞった12本の縄尻を、生まれ月ごとに子供達が持ちます。

勢いよく燃え上がる火柱で、青竹がはじけると「オー」と子供達は一斉に

歓声をあげます。竹柱が燃え尽きて倒れると、飾りや竹笹は魔除けに、孟宗竹は輪切りにして貯金箱にする習わしがあります。

現在では、七草祝いの子供も一緒においらいをして、縄の先端を持ちます。

1月7日





相撲 (相撲甚句祭り)



串間市都井岬 火祭り

〒888-0221
宮崎県串間市 大納字御崎42-3
31.366481,131.332905



肝属郡肝付町高山 四十九所神社の流鏝馬

四十九所神社
〒893-1207
鹿児島県肝属郡肝付町新富5580
31.343301,130.946807



曾於市岩川 岩川八幡神社の弥五郎どん祭り

岩川八幡神社
〒899-8102
鹿児島県曾於市大隅町岩川5745
31.594648,130.9869



ドン (夏越祭)



肝属郡肝付町本町 八月踊り

〒893-1207
肝属郡肝付町本町付近
31.347507,130.949092



曾於市末吉町 住吉神社の流鏝馬

住吉神社
〒899-8605
鹿児島県曾於市末吉町二之方3995-1
31.630702,131.038377



志布志市有明町蓬原 熊野神社の神舞

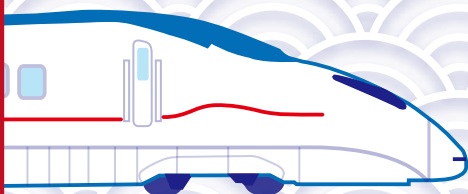
〒899-7503
鹿児島県志布志市有明町蓬原1441
31.484829,131.027555



大隅半島に行こう！

JAL KAL【鹿児島～ソウル】95 分
JAL CES【鹿児島～上海】50 分
JAL ANA SKY SNA【鹿児島～東京】105 分
FDA【鹿児島～静岡】90 分
ANA【鹿児島～中部国際】75 分
JAL ANA【鹿児島～伊丹】75 分
SKY【鹿児島～神戸】65 分
JAL【鹿児島～松山】55 分
JAL【鹿児島～福岡】55 分
ANA ORC【鹿児島～長崎】35 分

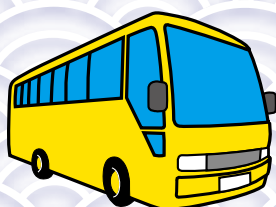
鹿児島空港観光総合案内所 電話：0995-58-2740



九州新幹線

新幹線 つばめ、さくら

九州新幹線は総延長257キロで、博多と鹿児島中央の間に最短で1時間19分、山陽新幹線との直通列車で新大阪と鹿児島中央の間に最短で3時間45分で結びます。



バス

鹿児島空港から

- ◇バス「大隅交通ネットワーク空港リムジン」で
→ 鹿屋市まで約1時間40分（2000円）
→ 志布志まで約1時間50分
・大隅交通ネットワーク（鹿屋） 電話 0994-65-2258
・大隅交通ネットワーク（志布志） 電話 099-472-1181

鹿児島中央駅から

- ◇直行バス「大隅交通ネットワーク・鴨池～垂水フェリー経由」で
→ 鹿屋市（リナシティかのや）まで約1時間30分（1300円）
◇路線バス「大隅交通ネットワーク」で→ 志布志まで約3時間



1月



曾於市末吉町 熊野神社の 鬼追い

熊野神社
〒899-8606
鹿児島県曾於市末吉町深川5892
31.690613, 130.988021



1月



ドヤドヤサー 鬼火たき

〒893-1402
鹿児島県肝属郡肝付町南方付近
31.276378, 131.080713



2月



志布志町安楽 山宮神社の 春祭り

〒899-7104
鹿児島県志布志市志布志町安楽1520
31.485278, 131.075972



3月



曾於郡大崎町 荒佐祭り(照日神社春祭り)

〒899-8313
鹿児島県曾於郡大崎町野方荒佐野
31.501653, 130.931003



4月



肝属郡東串良町 柏原大相

〒893-1615
鹿児島県肝属郡東串良町川東
31.36584, 131.012328

2月



志布志町田之浦 山宮神社の ダゴ祭り

〒899-7212
鹿児島県志布志市志布志町田之浦559
31.560372, 131.130956



3月



肝付町野崎・波見・(宮富) 棒祭り・鎌踊り

住吉神社(波見地区) 〒893-1202
鹿児島県肝属郡肝付町波見3038
31.354228, 131.010144
伊勢神社(野崎地区) 〒893-1201
鹿児島県肝属郡肝付町野崎2800
31.341185, 130.981386



4月



志布志市志布志町 お釈迦祭り

〒899-7102
鹿児島県志布志市志布志町帖6539
31.481019, 131.109796



8月



肝属郡肝付町岸良 ナゴシ

〒893-1511
鹿児島県肝属郡肝付町岸良
31.217509, 131.005912

棒踊り・鎌踊り 肝属郡肝付町



写真提供：肝付町

3月になると町内3カ所で棒踊り・鎌踊りが行われています。これらの伝統行事は昔は旧暦の2月に年穀の豊饒を祈願する祭りとして行われていました。

高山は肝付氏の城下として繁栄しており、当時農耕の中心として栄えたのでこれらの行事がいまなお残っております。

○野崎の鎌踊り
鎌やなたを地面に打ち付ける「もちつき」と鎌踊り、手踊りを奉納します。(場所・伊勢神社)

○波見の棒・鎌踊り
通常4集落が踊りに参加し、子供達を中心に、歌い手の囃子に合わせ踊ります。その後それぞれの集落を回り五穀豊穡を祈願します。(場所・住吉神社)

○宮富の棒踊り
宮下集落と富山集落が参加しそれぞれ伝来の仕方により踊りが若干違います。踊った子供達による「かぎ引き」や木製の黒牛を引く「牛使い」などの後、田の神舞が披露されます。(場所・桜迫神社)

本町の 八月踊り

肝属郡肝付町本町 無形民俗文化財



平成23年 The湾岸フォトコン「八月踊り」

八月踊りの起源には、開田、用水路竣工祝、豊年祭、慰霊、安泰祈願等の諸説があります。江戸時代寛文11年(1671年)の春に高山用水工事が竣工し、田高2千石が開発され、新満記念碑が建立されたとき、奉納されたと伝えられています。この性格は神事芸能であり、神霊祭祀の祈願と感謝祭であるといえます。

当日は、集落の水神様の前で鉦踊の法楽を行い、その次に講元で踊り、夜になって集落の櫓のある場所で八月踊りを行います。

三味線、胡弓、太鼓で哀愁を誘うしらべを伴奏に、唄い手が櫓の上で唄い始めると、音頭(踊り上手)が

先頭に立ち輪になって踊ります。踊り手は大体15歳から30歳ぐらいが主でしたが、近年は若者が少ないため、小中学生や高齢者も参加するようになりました。

踊り手の服装は、男子は浴衣に黒紋付羽織、蘭草で造った鳥追笠・草履ばき、女子は浴衣に黒帯、(波見、本町での若い娘の衣装は優美)中年の婦人は黒のお高祖頭巾に白鉢巻姿で、顔の両面に金箔銀箔の紙片を下げることもあります。

隔年
9月第4土曜日



柏原大相撲

肝属郡東串良町

平成22年 The湾岸フォトコン
「相撲甚句祭り」



平成22年 The湾岸フォトコン「健康祈願土俵入り」



4月中旬



柏原相撲甚句は、柏原大相撲とともに、旧暦9月15日に年中行事の一つとして、柏原海岸の松林で行なわれていました。この行事は、当時疫病の流行で苦しめられていた漁民や町の人々が、疫病退散と大漁・安全を祈願して始まったとされています。

往時は、近郷近在はもちろん、遠方より大勢の見物客が詰めかけ、盛大なものとなっていました。が、過疎化により昭和50年頃途絶えてしまいました。しかし平成元年、柏原地区の婦人を中心となり、この踊りを復活させ、平成5年には保存会として再結成されました。

烏帽子の袴姿の行事を先頭に、「揃たやエ揃いましたハア、閑取衆ウウ揃たドスコイ」と囃子にのって露払いに続き、見事な化粧まわしをつけた横綱が、太刀持ちを従え入場します。そして土俵入り、弓取り式へと続きます。踊りでは、人気力士の名入りの化粧まわしをつけた閑取衆が、三味線や太鼓の囃子にのって弧を描きながら踊る様子は、ユーモラスで豪快です。最後は「力士さんに貸したお金は、アヒルのタマゴ、返す心はさらにな」と場内を沸かしながら退場します。

山宮神社の春祭り 志布志市志布志町安楽

大隅半島には、志布志市田之浦、志布志市安楽、鹿屋市串良の三箇所に山宮神社があり、それぞれの神社では豊作を祈願して春祭りが行われ、春の風物詩となっている。

山宮神社の春祭りでは、「お田植」といって、稲に似せた竹串を境内に植える行事や、浜下りがあります。安楽神社では、境内を田に見立てて水鋤で耕す「田打」、牛面を被ってモカを引く「牛使い」、種籾をまく「種まき」があります。また拝殿の中では、モロムギの枝をもった神職によって舞われる「田植舞」があります。境内では青壮年たちが、田を打つカギで「カギヒキ」をします。いずれの祭りでも、黒頭巾で覆面し、紋付羽織にモモヒキ姿で踊る「正月踊り」が行われます。



平成22年 The 湾岸フォトコン「山宮神社の正月踊り」

2月第2土日曜日



無形民俗文化財

志布志市志布志町田之浦

志布志町田之浦山宮神社のダゴ祭り



写真提供：志布志市

無形民俗文化財

ダゴ祭りは、県内一早い春祭り行事といわれており、その年の豊作を祈念する農耕の祭り（予祝行事）です。現在は2月の第1日曜日に行われています。

神社に奉納するダゴ花は、2mほどの太い竹竿の先にワラを巻き付け、それに300本以上の団子の串をさしたものです。串には米の粉でつくった紅白の団子とニンジン、ピーマンなどがさしてあります。この串のほか、椿や梅、南天、キンカンの枝などもさし、ダゴ花は色彩り豊かな美しいものとなります。このダゴ花は稲穂にみ立てられています。

2月第1日曜日



祭典の後、田の神舞、四方鬼神舞、十二神剣舞などの神舞（かんめ）が奉納されます。祭りの最後には、ダゴ花の取り合いがあります。このダゴを食べると、一年中無事に過ごせることができるといわれています。

ナゴシドン 夏越祭 肝属郡肝付町岸良



写真提供：肝付町

平田神社の神舞は、主に毎年8月中旬に岸良の浜辺で奉納されます。平田神社の祭神は大山祇命・金山彦命・猿田彦命の三体で、三体とも鏡です。正月2日のテコテンドン北岳参詣の時にも奉納されることもありましたが、現在では8月のナゴシドン（夏越し祭）に奉納されています。戦前の神舞は盛大で、夕方から境内の舞台で夜を徹して催されました。

岩戸舞は、天岩戸に隠れこもった天照大神の神話を神舞で表現したもので、日の神を外に導く場面になると夜も白み始め、観客も出演者も崇高な感動に酔ったと言われています。

8月中旬



平田神社の神舞の故事来歴は不詳ですが、数ある面や鹿の角、肝付氏第11代当主の兼元の御宝殿修造1407年（応永14年）棟札などから残されていることから、神舞は古くから平田神社に伝承されていたものと思われます。

荒佐祭り (照日神社春祭り) 曾於郡大崎町



平成23年 The湾岸フォトコン
「春の祭り」

3月第2日曜日



荒佐祭りは、大崎町野方の荒佐にある照日神社の春祭りとして、毎年3月第2日曜日に例祭が行われる。荒佐祭り(照日神社春祭り)は昔から曾於郡三大祭りとして歴史と伝統ある祭りで、縁結びの神様としても親しまれている。神社境内では恒例の神舞奉納・演芸大会・剣道大会が開催され、町内外からのたくさんの人出でにぎわう。

荒佐祭りの特色のひとつに伝統芸能の神舞奉納がある。神舞保存会によって受け継がれ、2009年の春祭りでは67年ぶりに「浦安の舞」が復活した。照日神社の神舞は、同町仮宿にある都万神社の神舞を受け継ぎ、明治26年2月5日に初めて照日神社で踊られたという。神舞には「小鬼神の一人舞」、「地割(ちわり)舞(弓舞)」、「矢立(やたて)」、「矢抜(やぬき)」、「四人鬼神」、「杵舞(きねまい)」、「田之神」など19の舞があり、「照日神社神舞保存会」によって継承されている。

志布志市有明町蓬原 蓬原熊野神社の神舞



無形民俗文化財

11月23日



写真提供: 志布志市

「蓬原熊野神社の神舞」の歴史は古く、江戸時代初期ないしはそれ以前(400年前)から伝わり現在に至っております。

昭和46年当時の青年団を中心に、本神舞を故西山太吉氏の指導のもと、全段復活し昭和54年には鹿児島県指定無形民俗文化財に指定されました。今は毎年11月23日に熊野神社に舞を奉納しています。

四人鬼神舞は、東方・南方・西方・北方の4人の鬼神が一つの鉾(ほこ)を争う舞です。東方が白、南方が赤、西方が黄色、北方が青で、古くから神社に伝わる舞衣(めぎん)をまとつての荘厳な舞です。道具は、葉うちわ・棒・鉾です。

剣神師舞は、全員が剣と鈴を持ち、中央ちほうと立ち分かれてする舞で、ある時は厳かにそして激しく舞う舞です。

【編集後記】

今回は、鹿児島県の太平洋湾岸に残る伝統的なお祭りをとりあげてみた。鹿児島市を中心とする薩摩半島各地に残る六月灯(ろくがつどう)は、この地ではあまり見られないが、鹿児島県南部の奄美地方にも残る八月踊りが継承されている。肝属川流域では、集落単位で各地で棒踊り、鎌踊りが続いている。鹿児島県内では3ヶ所に残る流鏝馬などルーツを探して旅に出るのも面白い。

着目してみたいのが衣装である。いつも見る地域の祭りになると、ごく自然で当たり前なのだが、他の地域や他の国と比べると特色があることに気付く。

大隅半島の歴史は古く黒潮という潮流によって古くは交通のアクセスも非常によく、交易などで栄えていた。伝統文化芸能という痕跡をたどって、それぞれの時代考証をするのも祭りを見る楽しみにもなります。

お祭り種類の分布図を作ってみるのも楽しみです。(ほり)

発行 社団法人 新大隅青年会議所
〒899-7103 鹿児島県志布志市志布志町志布志 2 2 4 2 - 3
TEL:099-473-2378 / FAX:099-473-2367
E-MAIL: sin-ohsumi@s6.dion.ne.jp

編集 おおすみ東風隊(志布志観光ガイド、おおさき観光案内所、豊栄ひととべ会)
〒899-7302 鹿児島県曾於郡大崎町神領 2419 番地
TEL : 099-477-2400 / FAX : 099-477-2407

デザイン ZO CREATIONS
〒893-1605 鹿児島県鹿屋市串良町上小原 4939-6
TEL / FAX : 0994-63-0137

「大隅半島東部観光大キャンペーン事業」鹿児島県大隅地域振興局業務委託H23年
発行部数 2万部 / フリーペーパー(無料配布)

大隅のFM放送は全局ネットワーク、インターネットでも聞くことができます。

FMかのや77.2MHz FMきもつき80.2MHz FM志布志78.1MHz FMたるみず77.7MHz

おおすみ東風隊 presents

みごろ、たべごろ、大隅こっち隊

毎週金曜日 おひる 12:30 から30分

再放送日 毎週木曜日より 22:00 ~ 22:30 土曜日より 08:30 ~ 09:00

大隅の観光を中心に、旬のおいしいもの、歴史、ポイントなど見どころを話題に30分間のトーク番組です。リスナーの皆様からのお便り、リクエストなどお待ちしております。また、地域の情報もお寄せください。

●番組に関するご意見、ご要望、リクエストなどは下記の事務局までお願いいたします。

おおすみ東風隊 (おおすみこっち隊)

事務局 おおさき観光案内所

TEL 099-477-2400
FAX 099-477-2407

www.ohsumi.info

mail@ohsumi.info

志布志観光ガイド TEL 080-6448-2010
おおさき観光案内所 TEL 099-477-2400
特定非営利活動法人 豊栄ひととべ会 TEL 0994-63-2127

